

Ⅱ. 教職に関する専門教育科目

教育原理 月曜1限 (Principle of Education, the 1st period, Monday)

全学科 1年・2年 前学期 選択必修科目 2単位

担当教員 東野 充成

1. 概要**●授業の目的**

教育職員免許法に規定されている「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」「児童、児童および生徒の心身の発達および学習の過程」「教育に関する社会的・制度的または経営的な事項」に関して講義を行い、次の点を目的とする。

- ①教育を広く人間全体の営みの中に位置づけ、多角的に考察すること。
- ②子どもの発達にかかるさまざまなエージェントの役割について理解するとともに、現代社会における子どもの育ちと学びについて考察すること。
- ③現代の学校教育を取り巻く社会情勢を踏まえ、その課題を探求すること。

●授業の位置付け

自らが有する子ども観や教育観を反省的に捉えられると同時に、志向する教育制度や教育実践などについて表現できるようになること。特に、工業の教員免許を取得する点に留意し、現代社会における中等教育および職業教育の役割について理解を深められるようになる。

2. キーワード

子ども観・教育観 生涯発達・生涯学習 初等教育・中等教育 職業教育 教育問題

3. 到達目標

- ①自らの子ども観・教育観を深め、志向する教育制度や教育実践を表現できるようにする。
- ②多角的な営みとしての教育について、理解を深められるようになる。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション 「子ども」と「大人」の思想史 -
- 2回 教育的人間関係の基本構造と教育者の条件
- 3回 乳幼児をめぐる状況と課題 - 子どもにかかる諸機関 -
- 4回 教育と子育て（1） - ライフサイクルの視点から -
- 5回 教育と子育て（2） - 社会化エージェントの視点から -
- 6回 諸外国および日本の学校教育制度
- 7回 近代日本の教育の歴史と法制度
- 8回 義務教育の制度と課題
- 9回 高校教育の制度と課題
- 10回 高等教育の制度と課題
- 11回 家族・学校・地域の連携
- 12回 現代教育の諸問題（1） - 不登校といじめ -
- 13回 現代教育の諸問題（2） - 児童虐待と少年犯罪 -
- 14回 教育の再構築 - 情報化社会と生涯学習 -
- 15回 試験

5. 評価方法

- 授業は講義形式でおこなう。配布資料をもちいる。

●成績評価

- 小レポート 30%
期末テスト 70%

6. 履修上の注意

教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。

7. 教科書・参考文献

- 教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。

●参考文献

- 柴田義松他 『教育原論』 学文社
斎藤武雄 『工業高校の挑戦』 学文社

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと

教育心理学 Educational Psychology

全学科 第1年次 前学期 選択必修 2単位

担当教員 今村 義臣

1. 概要**●授業の背景**

児童・生徒を指導・教育する立場にある者は、環境をコントロールし、子ども達が最大限の心身の発達を達成できるよう援助する必要がある。そのためには人間の心のしくみの理解が必要である。心理学は、科学的な視点から人間の心のしくみに関する知識を授けてくれる学問であり、教育心理学は、その中でも教育的観点に焦点付けを行った知識を授けてくれる。

●授業の目的

教育者を志すものにとっては、教育心理学で得られた理論を学習し、それを現場でどのように活用するかが重要である。ここでは、心理学のみならず脳科学で得られた知見も交え、児童・生徒の指導上の諸問題に関する知識および技術を習得することが目的である。

●授業の位置付け

教育心理学は教職専門科目の中でも重要な科目の1つである。また、他の心理学の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

(関連する学習教育目標 : X)

2. キーワード

教育心理学、行動科学、認知科学、臨床心理学

3. 到達目標

教育心理学で最低必要な知識（発達、学習、人格と適応、障害児教育等）の習得。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 発達1 こころ（脳）の基本的メカニズムを成長と発達の観点から学ぶ。
- 第3回 発達2
- 第4回 発達3
- 第5回 学習1 学習の原理と学習指導について学ぶ。
- 第6回 学習2
- 第7回 学習3
- 第8回 学級集団 学級集団を把握するための理論・方法を学ぶ。
- 第9回 知能 知能のメカニズムについて学ぶ。
- 第10回 人格と適応1 人格と適応の諸理論を学ぶ。
- 第11回 人格と適応2
- 第12回 人格と適応3
- 第13回 障害児1 障害児の心理と教育について学ぶ。
- 第14回 障害児2
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

配布資料は常に持参すること、ノートをとること。

7. 教科書・参考書**●教科書**

新教職課程の教育心理学 中西信男・三川俊樹編 ナカニシヤ出版

●参考書

適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

E-mail アドレス
gishin@std.mii.kurume-u.ac.jp

教育社会学 月曜1限 (Sociology of Education, the 1st period, Monday)

全学科 1年・2年 後学期 選択必修科目 2単位

担当教員 東野 充成

1. 概要**●授業の目的**

教育社会学の対象範囲はきわめて広いが、本講義では、教育をひとつの文化現象として捉え、教育によってもたらされる社会構造の再生産や変容、文化変動・社会変動と教育との関連、子ども・若者が日常生活の中でつくり上げる生活様式などについて講義する。

●授業の位置付け

教育は他のあらゆる社会現象と相互規定的な関係を持つ包括的な現象であり、様々な角度から論じることができる。たとえば、スパートニック・ショックのように、テクノロジーと教育が密接に結びついた例もある。本講義では、このような包括的な教育という現象に、文化という視点から迫り、社会や文化に対して教育が果たす役割について理解を深められるようにする。

2. キーワード

文化伝達・文化的再生産 エスニシティ ジェンダー ポスト工業化 メディアリテラシー サブカルチャー

3. 到達目標

- ① 教育社会学の考え方を理解すると同時に、社会科学の基本的な概念についても理解できるようとする。
- ② 教育という現象を他の様々な社会現象との関係の中で捉えられるようとする。
- ③ 教育という現象の理解を通して、現代社会・現代文化に対する相対的な視点を獲得する。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション－教育とは、文化とか？－
- 2回 文化伝達としての教育－育児としつけ－
- 3回 文化的再生産と教育－家族、階層、言語－
- 4回 エスニシティと教育－人種、民族、国家－
- 5回 ジェンダーと教育
- 6回 学校と職業の接続
- 7回 メディアと教育
- 8回 学力とカリキュラムの社会学
- 9回 現代の子ども世界（1）－子ども観の社会学－
- 10回 現代の子ども世界（2）－子ども文化のイマー
- 11回 現代の若者文化（1）－若者文化の歴史と諸外国の若者文化－
- 12回 現代の若者文化（2）－現代の若者の生活－
- 13回 学校文化・教師文化・生徒文化
- 14回 文化としての少年非行
- 15回 試験

5. 評価方法

- 授業は講義形式で行う。配布資料で説明する。

●成績評価

- 小レポート 30%
期末テスト 70%

6. 履修上の注意

教員免許（工業）取得希望者は、履修することが望ましい。

7. 教科書・参考文献

- 教科書 特に指定しないが、参考書をそのつど指示する。

●参考文献

- 住田正樹他『教育文化論』放送大学出版会
志水宏吉『学校文化の比較社会学』東京大学出版会

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。

教育課程の研究 Curriculum

全コース 2年次 前学期（集中講義）2単位

担当教員 堀 正之

1. 概要

教育職員免許法施行規則で定められている「教育課程及び指導法に関する科目」のひとつである。「各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間」からなる学校の教育活動の全体計画である教育課程についての理解を深めるとともに、これを運営してゆく際の基本的な問題について考察する。

2. キーワード

学校 教科 道徳 特別活動 総合的な学習の時間

3. 到達目標

- ①各自が受けてきた学校教育の内容を教育課程という視点から対象化する。
- ②教育課程を構成する各領域の目標、内容、その現代的意義をふまえた指導の在り方について理解する。

4. 授業計画

- 1回 はじめに－学校教育をとりまく状況－
以下 教育課程総論
- 2回 教育課程とは何か・語義／意義・領域／構造
- 3回 教育課程の変遷
- 4回 教育課程の類型（1）
- 5回 教育課程の類型（2）
以下 教育課程各論
- 6回 教科（1）学習指導要領と教科の内容
- 7回 教科（2）学習指導の基本
- 8回 道徳（1）道徳教育の目標／道徳の内容
- 9回 道徳（2）道徳の指導計画／道徳の時間の指導
- 10回 特別活動（1）特別活動の目標・内容
- 11回 特別活動（2）特別活動の指導計画・実践事例
- 12回 総合的な学習の時間（1）新設の意義・内容
- 13回 総合的な学習の時間（2）計画・実施・評価
- 14回 講義のまとめと質疑
- 15回 試験

5. 評価方法

最終テストによる。ただし、本科目は集中講義であるので、原則として全時間の出席が必要である。

6. 教科書

田中耕治他『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ 2005年

教育方法 Educational Method

第3年次 前学期 2単位

担当教員 木山 徹哉

1. 概要**●授業の背景**

学習者に伝えようとする（あるいは学習者が学ぼうとする）知識や技術等を、学習者の発達や興味・関心にどう適合させ、いかに授業を展開させるか、という問題について考えるのが教育方法（学）の課題である。したがって、この学問領域では「どのような教育内容を構成するか」、「それをどのような順序で、どんな材料を使って教えるか」、そしてさらに「教えた（学習した）結果をどう評価するか」という問い合わせを含む。

●授業の目的

学習指導要領の変遷や授業実践例の検討を通して、教育課程、教育方法、および教育評価に関する先人の試みを学習する。さらに、それによって得られた知見を基に、今日「総合的な学習の時間」等で展開されている授業や「学力低下」と言われる現状について分析する。

●授業の位置付け

(関連する学習教育目標：X)

2. キーワード

学習指導要領、授業記録、学力、評価

3. 到達目標**4. 授業計画**

- 第1回 イントロダクション－これまで受けた授業を振り返る－
- 第2回 学校教育は何を教えてきたかⅠ（学習指導要領の変遷を中心に）
- 第3回 学校教育は何を教えてきたかⅡ（　　〃　　）
- 第4回 授業を構成する要素を考えるⅠ（授業記録等を用いて）
- 第5回 授業を構成する要素を考えるⅡ（　　〃　　）
- 第6回 授業を構成する要素を考えるⅢ（　　〃　　）
- 第7回 教育課程、教育方法、教育評価に関する基本的理解の確認
- 第8回 「総合的な学習の時間」のねらいと展開
- 第9回 「学力低下」論争から見えるもの
- 第10回 学習指導要領の今後の方向Ⅰ－見直しの背景
- 第11回 学習指導要領の今後の方向Ⅰ－どのような授業が展開されるか－
- 第12回 情報化社会における教育の方法・技術
- 第13回 学力と評価について考える
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

レポートの結果（70%）と出席状況（30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

基本的に講義だが、積極的な発言を期待する。

7. 教科書・参考書**●教科書**

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

●参考書

授業のなかで紹介するので積極的に読んで欲しい。レポートの課題にもなる。

8. オフィスアワー等**教育相談 Educational counseling**

全学科 2年 前学期 2単位

担当教員 山田 幸代

1. 概要**●授業の目的**

教育現場における目的は、児童・生徒の全人的発達を支援することにある。本講座ではこの目的に沿うべく、臨床心理学をベースとした教育相談のあり方の症例を多く取り入れながら、示していきたい。また大学でのより学生生活・修学の基礎となる各自のメンタルヘルスについても言及していくものとしたい。

2. 授業計画

- 1回 オリエンテーション（グループワークを含む）
- 2回 教育相談の手法① カウンセリングの基礎と実際－1－
- 3回 教育相談の手法② カウンセリングの基礎と実際－2－
- 4回 教育相談の手法③ 知能検査の理論
- 5回 教育相談の手法④ 人格検査の理論と実際
- 6回 教育相談の手法⑤ ストレスとストレスマネジメント
- 7回 教育相談の手法⑥ 交流分析とエコグラム
- 8回 教育相談での処遇と機関（少年法について。公的機関、病院などについて）
- 9回 教育相談の対象① 軽度発達障害：ADHD、LD、広汎性発達障害（自閉症）
- 10回 教育相談の対象② 思春期と精神疾患：摂食障害、鬱病、統合失調症
- 11回 教育相談の対象③ 思春期と精神疾患：PTSD、パニック障害
- 12回 教育相談の対象④ 思春期と精神疾患：行為障害、同一性障害など
- 13回 教育相談の対象⑤ 虐待及び不登校 全体のまとめとレポートについて

3. 評価方法

レポート提出（定期試験期間中に）

4. 履修上の注意

出席点を加味する。

5. 教科書・参考文献

用いない。必要な資料は授業において配付する。参考文献の紹介はその都度行う。